



埼玉の社叢

川島町伊草神社叢ふるさとの森

比企郡川島町伊草一八二

伊草神社は、大正二年（一九一三）に周辺地域の神社を合祀するまでは「日枝神社」、さらに江戸時代までは「山王社」と称していた。

当社は真言宗大聖寺に隣接して鎮座するが、これは近世初期、大聖寺中興の僧、俊圓が、高徳の聞こえ高く、この辺りでよく鷹狩りを行っていた徳川三代將軍家光は、俊圓に深く信仰し、その教えに従い、その威徳を仰ぎ、度々訪れるようになったことから、寺に隣接して「御茶屋」と呼ぶ將軍専用の仮宿舎を造営し、以後も元和九年（一六三三）から寛永七年（一六三〇）までに七度ここを利用していた。

しかし、寛永九年（一六三三）、父秀忠の死後、家光の鷹狩りは江戸から五里以内で、日帰りに限るようになったことや寛永十年（一六三三）十一月に俊圓が亡くなったこともあり、以来、この「御茶屋」は使用されることはなかった。

その後、五代將軍綱吉の時代に「生類憐みの令」が出されるに及んで鷹狩りも禁止され、元禄時代初期（一六九〇頃）、川越藩主松平伊豆守信輝の命によって、この「御茶屋」は廃止されたが、伊草宿では將軍ゆかりの土地が穢れることを畏れて、鎮守社の山王社をこの場所に遷したと伝えられている。

以来、三百有余年を経た境内の林相は、主にスギとケヤキから構成され、周辺でも貴重な緑となっており、昭和五十七年三月九日、県の指定になった。